

ニュージーランド サンゴールドキウイの栽培ライセンスが少ない

Radio New Zealand 2023年12月14日

キウイフルーツ販売事業者であるゼスプリは、来シーズン、ゴールド品種を栽培するためのライセンスの発行数を少なくし、ルビーレッド品種のライセンスは発行しない。

生産者向けの最新情報では、2024年には今年より少ない250ヘクタールのサンゴールドキウイフルーツ栽培ライセンスを発行するとされている。250ヘクタールは、ゼスプリが昨年末に発表した2023年の見通しの中で発行すると示唆していた数量の半分に過ぎない。

ゼスプリのブルース・キャメロン会長は、サンゴールドキウイフルーツの追加のヘクタール数を減らすという決定は、サプライチェーンで生じている制約を認めたものであり、そのことと、需要の高まりに対応するためにサンゴールドの生産量を増やす必要があることとのバランスを取るものであると述べた。

ライセンスの発行数は今後増加すると予想されていた。ゼスプリの取締役会は、毎年の見直しを条件として、2026年から2028年にかけて目安として年間350～500ヘクタールのサンゴールドキウイフルーツのライセンスの発行を承認している。

ゼスプリは、ルビーレッドについては、そのサイズ、収量、貯蔵性などの果実の性質をよりよく理解する必要があるため、新規のライセンスは発行しないとしている。同社は、2025年に100ヘクタール、2026年から2028年にかけて毎年100～300ヘクタールのルビーレッドのライセンスを発行する予定であった。

キャメロン会長は、「将来の成長に対応するためには、今後2年から5年の間に陸上の梱包施設と冷蔵倉庫の能力を増強する必要がある。ポストハーベットの業界は、さらなる投資を支持するためには生産量と収益を増やす必要があるとしている。生産者には、ライセンス購入の決定を下す前に、取引のあるポストハーベスト業者と連携して、梱包施設と冷蔵倉庫の将来の処理能力を理解しておくことを推奨する」と述べた。

南米 パナマ運河の遅延で果実輸出用の段ボール箱が不足

FreshPlaza 2023年12月15日

パナマ運河の遅延は、2024年1月から3月の南米の収穫と輸出の重要なピーク時期の段ボール箱不足につながる可能性がある。この警告は、エクアドル段ボール工業の営業部長あるルイス・アルベルト・ハラミーゴ氏によるものである(以下「」は同氏の発言)。「特に1月は問題がある。パナマ運河を避けるため、すでにホン岬回りのルートに変更している輸入業者もいるが、これは3週間余分にかかるだろう。」

同氏は、箱不足を避けるために既に紙を輸送する計画を立てている大手バナナ会社を知っている。「直接聞いた話によると、バナナを扱うある多国籍企業が、12月の箱不足を避けるため、段ボール原紙を米国の東海岸から西海岸に鉄道で運び、そこから南米に運ばなければならなかったケースがあるらしい。この状況は、エクアドル、ペルー、チリにも当てはまる。」

「エクアドルでは、バナナ及びプランテイン(料理用バナナ)の輸出用、国内市場用、規格外品用を合わせて2023年に4億箱の製造が見込まれている。全量の29～31%がハイシーズンである第1四半期に使用される。2022年の過剰な輸入と2023年の段ボール原紙価格の漸進的な下落により、すべての段ボール業者は年間を通じて在庫を減らしている。現時点では、在庫量は最低水準にあり、パナマ運河の状況により紙の到着にすでに遅れが出ている。農業用の箱にはクラフトライナーとホワイトトップクラフトライナーを使用する必要があるため、これらが米国東海岸とヨーロッパから輸入されていることを忘れてはならない。」

パナマ運河庁は、現在の干ばつと雨不足による水位の低下、及び(運河と)国民の淡水需要とのバランスをとる必要があることについて警告している。節水対策も講じられている一方、船会社は限られた通過枠を獲得するために数百万ドル(数億円)を支払っている。同庁は、雨の少ないシーズンがまだ長く続くと警告している。

執筆者: クレイトン・スワート